

東京ワクチンチーム 座談会

東京の医療の力が結集して難局を切り拓く ワクチン接種は大きな第一歩

公益社団法人 東京都医師会

尾﨑 治夫 会長

公益社団法人 東京都歯科医師会

井上 惠司 会長

公益社団法人 東京都薬剤師会

貞松 直喜 常務理事

公益社団法人 東京都看護協会

山元 恵子 会長

2021年6月、新型コロナウイルス感染防止対策の出口戦略として、東京都医師会、東京都歯科医師会、東京都 薬剤師会、東京都看護協会の四師会で構成される「東京ワクチンチーム(TVT)」を設置。主に、中小企業で働 く方々を対象にした職域接種を四師会協働で実施しました。東京商工会議所で実施された「中小企業を対象に した新型コロナウイルスワクチン共同接種」では、7~9月の期間内に約1.8万人(合計約3.6万回)のワクチン 接種を大きな事故なくやり遂げました。その「東京ワクチンチーム」の活動について振り返ります。



これからの時代、専門職が一人でがんばるのではなく、 協力し合うことが重要 今回の取り組みをきっかけに、さらに協力し合う体制を作りたい

一 公益社団法人東京都医師会 尾崎 治夫 会長

中小企業で働く方々へ 一刻も早くワクチンを届けるために設立された 東京ワクチンチーム

山元:皆さま、本日はお忙しい中、ありがとうございます。 尾﨑会長、改めて今回の東京ワクチンチーム設立の経緯に ついてお話しいただけますか。

尾崎:きっかけは2021年、東京商工会議所の三村会頭から、都内の多くの中小企業でワクチン接種が遅れているという相談をいただいたことです。2021年4月から歯科医師の先生もワクチン接種が可能になりましたし、取り扱いが難しいワクチンの管理も薬剤師の方々がいてくだされば安心です。さらに、看護師の皆さんにも力をお借りして、チームで取り組んではどうかと考えました。

山元:歯科医師の方にとっては、初めてのご経験だったのではないでしょうか。

井上: そうですね。通常、歯科の治療ではワクチンのように筋肉注射を打つことはありません。そのため、今回のワクチン接種にあたっては、歯科医師会会員のうち約600名がこちら(東京都看護協会)で講義や実技研修を受けました。特例的ではありましたが、いい経験となりありがたかったです。

山元:研修の担当者からは、皆さんが積極的に参加してくださって取り組みやすかったと聞いています。東京都薬剤師会ではいかがでしたか。

貞松:薬剤師には医療法上ワクチン接種はできないまでも、薬剤師として何かできることはないかと模索していたときに 尾崎会長にお声がけいただいたので、すぐに永田(東京都薬剤師会会長)が「ぜひ参加したい」とお返事しました。私 たちは薬の専門家として、接種する方にも患者さんにも不 安を与えずにワクチン接種をできるようにすることを最大の 目標に掲げて取り組みました。国から届いた扱いづらいシ リンジを替えてもらうための交渉や、ワクチンを保管する冷 蔵、冷凍庫の問題など課題はいろいろありましたが、なんと か無事に乗り越えられたのではないかと思っています。

山元: ありがとうございます。本当にいろいろなことがありましたね。

私たち看護師は臨床で診療の補助業務として注射を実施する機会は比較的多くあります。日本ではワクチン接種というと皮下注射が一般的ですが、今回の新型コロナウイルスのワクチン接種は筋肉注射の手技が適用され、注射を打つ部位は上腕の三角筋の中央位置、刺入部の皮膚はつまみ上げないなど、新しい学びがありました。歯科医師の方とも看護師がペアを組み、問診担当と打ち手になり、お互い協力し合ってスムーズに実施していました。

また、薬剤師の方がワクチンをしっかり管理してくださることで接種に専念することができ、看護職として接種前のアレルギーの確認や接種後の観察、安全配慮等の役割を十分に発揮することができました。

ウイズコロナ、アフターコロナの 医療のあり方を考える

山元:東京ワクチンチームが接種した人数は、第1・2回目が18,797人、3回目が6,500人、合計で約25,000人に上ります。このように不特定多数を対象とした接種会場であっても大きなトラブルもなく進められたのは、東京都医師会や東京商工会議所の方々が丁寧に準備を進めてくださったことも大きいと思っています。

ワクチン接種に限らず、今後、四師会で取り組めそうなこ とがあればぜひご提案ください。

尾崎:特にいま、問題だと感じていることは、コロナ禍をきっかけにデイサービスなど高齢者が集まる場所や機会が激減したことで、自宅に閉じこもりフレイル(心と体の働きが弱くなってきた状態)になる人が増えていることです。健康な歯でなければ嚥下能力が落ち、認知症にもつながりますし、自分で薬を正しく飲めなくなっている患者さんには薬剤師さんの助けが必要です。もちろん、訪問看護など看護師の方々の働きも重要です。

これからの時代はそれぞれの専門職が単独でがんばるのではなく、協力し合わなければ一人ひとりの状態に合わせた適切な支援を継続的に行うことはできないと感じます。

山元: 本当にそうですね。今回、宿泊療養施設を設置した



一人ひとりの患者さんに寄り添い支えるためには 多職種との連携がとても重要になる

公益社団法人東京都歯科医師会 井上 惠司 会長

際に、口腔ケアがしっかりできる人がいないという声が上がりました。 超高齢社会に向かっているいまの時代、改めて口腔ケアの大切さについて考えさせられました。

井上:各地区の歯科医師会では訪問診療も行っているので、すでに機材は揃っています。ぜひ必要な場所に出向いて行って、オーラルフレイル予防などに取り組みたいですね。

貞松:私たちはコロナ以降、非対面でのやりとりがノーマルになってきた中で、患者さんとの接し方や、医師や看護師の方々との情報交換について考えています。

これまでは治療への服薬指導等がメインでしたが、これからは包括ケア、治癒後の健康サポートが大切なのではないでしょうか。特に新型コロナウイルスは、副作用などまだまだ何が起こるかわかりません。今後も連携を取りながら、さまざまな形で患者さんのケアに取り組めたらいいですね。山元:コロナ禍では、家族と面会できないまま亡くなっていく患者さんもたくさんいらっしゃいました。私はある患者家族に言われた「もう1年半も会っていません。私は母が亡くならないと会えないのですか」という言葉が胸に刺さりました。

そのため、オンライン面会支援事業を実施しました。タブレット端末を活用した面会をどこの病院でもできるように、 希望する施設に端末を無償配布しました。ハード面だけで なく、面会のルールづくりや人員確保、他部門との連携等のシステム化や運用面についても提案しました。特に、都内の200床未満の小規模病院では、院内のインフラや通信環境が整っていない、人手が確保できないという課題が挙がっています。対面での面会が制限される中でも心が通い合える面会を実現させるために、アフターコロナに向けては、ご家族にも配慮した対策が必要だと感じています。

尾崎: いまは抗原検査の精度も上がっていますから、面会 をはじめあらゆる場面でもっと活用するよう広めていきたい ですね。

日本で新型コロナウイルス感染症に罹患して亡くなった方は約3万人。決して少ない数字ではありませんが、人口で換算すると欧米では20~30万人、日本の約10倍も亡くなっている。そう考えると、改めて日本は高齢者の方を守るためにがんばったと思います。

山元:本当に、医療従事者一人ひとりががんばってきました。東京都看護協会では、クラスター発生により働く看護師がいなくなってしまった都内の病院へ職員が緊急支援に行きました。また、日本看護協会から要請を受け、北海道、大阪府、宮城県、沖縄県に職員を派遣し、北海道知事から感謝状をいただくなど、コロナ支援では幅広い活動を実施しました。

また、米国のように全国民をカバーする公的保険制度が

ない国では治療を受けることすらできずに 亡くなっている方がたくさんいらっしゃる ことを考えると、改めて日本の社会保険制 度を守っていかなければならないとも思い ました。今後日本がどのように進んでいく べきかを考えるきっかけにもなりました。

薬剤師会では、今回のような緊急事態



四師会の連携を通じて、国民の皆さんの健康を守るため 情報共有をしながら活動していきたい

一公益社団法人東京都薬剤師会 貞松 直喜 常務理事



の活動計画など、どのように計画されていますか。

貞松:国のしっかりとした方針のもとに治療薬が開発され、 その薬が正しく、適切に、そしてタイムリーに患者さんの手 元に届けられるようになることが理想だと思います。

今回もさまざまな薬が開発されたものの、なかなか必要 な人に届けることはできなかった。かかりつけのお医者さん や薬局で、普段のお薬と同じような流れで適切に届けられる ようになるといいですよね。

もう一つ、いつ都市直下型地震が起こるかわからないと 言われている昨今、四師会でチームを組んで災害対策など を行うことも必要ではないでしょうか。

尾崎: 震災以外に地球温暖化による豪雨などの自然災害も 増えています。IMAT (日本医師会災害医療チーム) など既 存のチームも一緒に、みんなで活動できるようにしていきた いですね。

山元:東京都看護協会では災害時の避難所支援などで活 動する「災害支援ナース」を養成しています。日本看護協 会の災害時支援ネットワークシステムに基づき、広域支援 対応の要請があれば全国の都道府県看護協会が災害支援 ナースを派遣する制度もあります。こうした活動に参加して いただける看護職をさらに増やしていくことが使命と考えて います。

超高齢社会を支えるためにも、 四師会の連携は必要不可欠

山元:最後に、これからの活動の抱負についてひと言ずつ いただけますか。

井上: 高齢化など時代の変化によって、治療のあり方も「治 す | ことから 「支える | ことへと変化しています。 先ほどのお 話にあった訪問診療なども含めて、一人ひとりの患者さんに 寄り添い支えるためには多職種との連携がとても重要にな ります。

今回のことをきっかけに、関係を深め、これからどのよう なことができるか一緒に考えていけたらと思います。

貞松:行政によって医政と薬務が大きく分けられているた め、これまで薬剤師には情報がなかなか下りてこないという ことが多くありました。今後は四師会の連携を通じて、国民 の皆さんの健康を守るために、情報共有をしながら活動を していきたいと思っています。

尾崎:往々にして物事は、一人ががんばって排他的に行う よりも、チームを組んで協力し合う方がうまくいくものです。 高齢化が進み、医療や介護を必要とする人がどんどん増え る中で、こうして協力し合うことはとても重要です。

今回の東京ワクチンチームをきっかけに、医療関係者が 協力し合う体制を作ることができたらいいですね。

山元:2017年には四師会の連携によって受動喫煙防止対 策を進めることができましたし、コロナ対策においても四師 会による働きは大きな効果があったと言えるでしょう。これ からも各職能団体の特長を活かして協働し、東京都民の健 康増進や安全対策に貢献できるよう、四師会が結束して継 続的に活動していきましょう。

本日はいろいろなお話を聞かせていただき、ありがとうご ざいました。



コロナ対策においても四師会の協働は大きな効果があった 今後も四師会が結束し継続的に活動していきたい

公益社団法人東京都看護協会 山元 恵子 会長